



今月の一枚

大収穫のたけのこ（4月12日、相木国男氏の竹林にて）

◆◆ たけのこ掘り大会 ◆◆

さる4月12日、相木国男氏の竹林にてたけのこ掘り大会が行われた。昨年は収穫が少なかったたけのこも、今年は豊作に恵まれた。土の中から顔を出すたけのこを探し当てる楽しさや、掘り上げる喜びに、参加者それぞれが春の訪れを実感したひとときとなった。

順慶寺だより



印刷・発行 順慶寺
2026年(令和8年)

5月号

VOL. 391

◇後悔だけでは救われない◇

今月の釈尊の言葉は、『ダンマパダ』の次の偈に基づきます。

「悪い行いをした者は、

この世でもあの世でも、

二つの世界でともに悔いる。

『私は悪いことをした』と思って悔い、

悪い境遇に堕ちて、なお苦しむ」

(第十七偈)

―以上、ここから引用しました。

私たちは日々、業を積み重ねて生きています。それが善業か悪業かは、結果が現れて初めて分かる場合も少なくありません。善業は喜びを生みますが、悪業は後悔を招きます。しかも、その悪業を帳消しにしようとして別の業を重ねると、かえって悪を増やしてしまいがちです。

この偈は、釈尊を怨んで悪業を重ね、ついには無間地獄に堕ちたとされるダイバダッタの逸話に重ねて語られます。

ダイバダッタは、釈迦族から阿那律・



今月の釈尊の言葉

悪い事をする

やがて悔いて悪境地におち

たらに苦しむ

若院のテーマカット NO.80



阿難ら六人が出家したとき、その一人でした。ところが、彼を除く五人に利得と尊敬が集まる一方で、ダイバダッタは思うように得るものがありませんでした。

やがて彼は釈尊を怨み、マガダ国の王子・阿闍世に取り入って信頼を得ます。そして釈尊に引退を迫りますが拒まれ、釈尊を亡き者にしようとする策を巡らせました。

まず、釈尊の後ろ盾であった父王・頻婆娑羅を阿闍世に殺させます。続いて自らも釈尊を害そうとし、山から石を落とす、酔った象を放つなどの企てを重ねますが、い



『ダンマパダ』
第17偈より

ずれも果たせませんでした。その後も失敗を重ね、やがて病に伏します。そのとき初めて自らの悪業に気づいて詫びようとした矢先、無間地獄に墮ちたと伝えられています。

◇意味のある懺悔とは◇

では、悔いたダイバダツタは、なぜ救われなかったのでしょうか。後悔もまた業の一つであり、とら

われるほど悪い思いが増してしまうからです。例えば、誤って暗いトンネルに入り、出口が見つからないときに、「なぜ入ってしまったのか」と悔やみ続けることは、それ自体が悪業となります。後悔しても気持ちには上向かず、沈みが深まるばかりです。過ぎたことに心を縛られるほど、いま目の前にある道も見えに

くなくなってしまう。さらにその思いにとらわれ続けることで、心はますます閉ざされてしまうのです。そうして視野が狭まり、他者の言葉や導きにも気が付きが及ばなくなります。

善導大師は六時礼讃によって、一日に六度の懺悔を行い、浄土往生を願うことを勧められました。ただし六時礼讃では、懺悔に先立って「南無して心をつくして、西方の阿

弥陀如来を礼する」ことが説かれます。すなわち、まず光のある方へ身を向け、顔を上げる。そのうえで、これまでのわが身の業を懺悔する。

これは、新たな生きる道を見いだすための業にほかなりません。私たちは、正しい智慧を授けてくださる方に向かい、日々を歩むことが大切なのだと思えます。

六時礼讃とは、浄土教における法要、念仏三昧行のひとつ。一日を6つに分け、誦経(誦経)、念仏、礼拝を行う。六時とは、一般に以下の6つの区分をいふ。

①ダイバダツタ

紀元前四〜五世紀頃、生没年不明。釈尊の従弟。また弟に阿難、釈尊以外の従弟には、天眼第一と称される阿那律などがいる。仏典においては、釈尊の殺害を計画、または教団の分裂を企てたりした(あるいは実際に分裂させた)悪人とされる。『観無量寿経』では、阿闍世をそのかし、いわゆる「王舎城の悲劇」の発端を作った人物として登場する。

(Web版浄土宗大辞典より)

②六時礼讃

六時礼讃とは、浄土教における法要、念仏三昧行のひとつ。一日を6つに分け、誦経(誦経)、念仏、礼拝を行う。六時とは、一般に以下の6つの区分をいふ。

- ①日没(にちもつ)ー申、酉の刻
- ②初夜(しよや)ー戌、亥の刻
- ③中夜(ちゆうや)ー子、丑の刻
- ④後夜(ごや)ー寅、卯の刻
- ⑤晨朝(しんじょう)ー辰、巳の刻
- ⑥日中(にちちゆう)ー午、未の刻

(ウィキペディアより)



本堂の正面に「無量寿」とありましたが、正信偈の有名な冒頭にも「無量寿」とありますが、ずっと「無量/寿如来」と区切る思っていました(汗)



じゅんこちゃん、本堂の正面に「無量寿」と書かれていることに、よく気づきましたね。

実は本堂の正面には、少し難しい字で「無量寿」と書かれているため、読めない人がたくさんいるのです。

先月から順慶寺の真宗講座で、「イチから始める『正信偈』が始まりました。小学五年生でも分かるように、住職が『正信偈』の内容をやさしく解説する講座です。

『正信偈』の冒頭には、じゅんこちゃんが言ってくれた「無量寿」という言葉が出てきますね。字面だけ見ると「限りなく長い命」と読めて、長生きこそが幸せだと思ってしまうがちです。そこで質問です。早く亡くなった人は、本当に不幸なのでしょうか。よく考えてみてください。

近年の日本では医学が進歩し、長生きできる人が増えています。日本は世界でも長寿国として知られていますが、幸福度は世界で40位以下だと言われています。平均寿命が日本より短い国より低いことさえあります。つまり、長生きするだけでは幸せにならないのです。

実は「無量寿」には、安らぎという意味も含まれています。さまざまな経験を重ね、少しのことでは動揺しない。ゆつたりと受け止めてくれる安心感が、「無量寿」にはあるのです。

や他の物の値段が上がる様子を見ているうちにどんなに「こが起った」と思ってしまう。遠くで苦しんでいる人がいるにもかかわらず、自らの生活に影響が及んで初めて深刻に気づく。そのような自分の在り方に、あらためて思い至らされます。

若院の成長日記

Growth Diary

《第七三回 ガソリン》

この頃、インフレーションの悪化によってガソリンが値上がりしていることはみなさんよく痛感しているところだと思えます。インフレーションが攻撃されたというニュースは前から目にしていたのですが、どこか他人事のように受け止めていました。しかし時間が立つにつれ、ガソリン

や他の物の値段が上がる様子を見ているうちにどんなに「こが起った」と思ってしまう。遠くで苦しんでいる人がいるにもかかわらず、自らの生活に影響が及んで初めて深刻に気づく。そのような自分の在り方に、あらためて思い至らされます。

お寺とともに

「寺報」



昔、はじめて「寺報」という言葉を聞いたとき、「ん？寺報(じほう)?」と首をかしげてしまいました。

字面だけではピンと来ませんでした。でも「順慶寺だより」と聞いて、ああ、なるほどお寺の新聞のことか、とすっと腑に落ちたのを昨日のこのように覚えていています。

そんな寺報も、発行から30年を超えました。先月号からは若院が編集のバトンを受け取り、いよいよ担当が交代です。話は一年ほど前から聞いていたものの、長年、住職があれこれ苦労する姿を見てきただけに、「急に若院で大丈夫かな」と少し心配もありました。それでも、なんとか4月号ができました。

ちようど年度末で、寺報づくりの進み具合が気になっていたのですが、気づけば私のほうが情けないほど仕事に追われていて、「大丈夫？しっかりね」と、こちらが言われてしまいました。

「継続は力なり」まさにその言葉のとおり。これからも、毎月コツコツ続けていってこれたらうれしいです。

蓮師会・護寺会総会開催

4月18日、19日の両日、順慶寺護寺会主催の蓮師会および護寺会総会が開催されました。蓮師会は、蓮如上人のお徳を偲ぶ、代々続く順慶寺の法要です。参詣者の皆様により多く足を運んでいただけるよう、昨年度より土曜・日曜での開催としております。

両日ともに気持ちの良い晴天に恵まれ、百席ほど用意した席もほとんど埋ま

り、計一七〇名ほどのご参詣をいただきました。

当日は蓮師会のお勤めの後、護寺会物故者追弔会も執り行われ、厳かな雰囲気の中、会は滞りなく進められました。その後、護寺会総会が開かれ、議事に沿って進行し、承認されました。主な変更点として、本堂使用料が新たに定められました。詳しくは、

4頁のおしらせを参照してください。

お花立てやお磨き、大掃除など前日の準備に加え、当日は多くのご参詣をいただき、お斎の準備やお抹茶の接待など、皆様のご協力のもと、素晴らしい蓮師会がお勤まりになりました。

【特別寄進】

御仏供米二斗 山ノ端組・鈴木市成殿
御仏供米一俵 今川西組・塚本敬殿
野菜など お勝手会一同

令和八年度 蓮師会総会写真集



両日天気に恵まれる



お抹茶接待



助音講の皆さんと勤行



追弔会



法要を知らせる太鼓



お勝手会と年番による配膳



護寺会総会



庫裏でのお斎接待



瀧義範氏の法話



青木馨氏の法話

初参り式を実施

さる4月12日、たけのこ掘り・花まつりに合わせて誕生児初参り式が行われました。4名の誕生児が参加され、和やかな空気の中、お子さんの誕生を祝うことが出来ました。



供華の様子

太鼓の会が始まる

さる4月13日、第一回の太鼓の会の練習が行われました。最初の練習ということもあり、基礎となる構えから塩崎先生に教えていただきました。年齢・経験問わずメンバーを募集しています。連絡は順慶寺まで。



順慶寺玄関での練習

編集部短信

◆住職による真宗講座始まる!! さる4月12日、令和8年度の真宗講座がスタートした。小学5年生でもわかる正信偈講座を触れ込みとし、3年をかけて正信偈を解説する。希望者には写経の時間も設ける。第一回の今回はガイダンスを行った。

◆駐車場の工事着手!! 順慶寺入口駐車場の東側、白いシャッターの車庫の取

編集雑記

り壊しが始まった。2、3台ほど参詣者の駐車スペースが確保される予定。

四月は集まりが多く、お寺も賑やかなひと月でした。なかでも嬉しかったのは、お寺の集いで同級生と再会する姿を見られたことです。ああ、これこそがお寺の真骨頂だと、確信しました。(住)

着々と事務仕事が増え、気付いたら5月になっていました。(若)

4月度護寺会物故者(敬称略)

釋尼妙鈴

4月13日寂 酒井鈴江(92)

市場下組 酒井尉様の母

香蘭院釋謙光

4月23日寂 加藤謙二(78)

京都府 加藤眞知子様の夫

浄泉院釋尼明果

4月17日寂 杉浦あけみ(89)

西丘組 田原美奈子様の母

以上3名の方がお浄土に

お還りになりました 合掌



5月の主な行事予定

編集・発行人
印刷・発行所

池浦良慈
順慶寺内

真宗大谷派順慶寺

郵便番号 四四八〇〇〇四
愛知県刈谷市泉町池之浦二

連絡

電話 〇五六八二二二九四
FAX 〇五六八二二五三三
郵送 郵便料毎月円(年間千二百円)
振替 〇〇八二二〇〇一六六九

会員 護寺会員には五百円にて
一年間郵送をいたします。

インターネット

URL: <http://www.junkyoji.com/>
E-Mail: support@junkyoji.com

日	曜	行事内容	掃除当番
1	金	寺カフェ(9:00~、順慶寺南落間他) むつみ会お楽しみ会前住職追弔会 (10:00~、順慶寺本堂)	
2	土		
3	日		
4	月		
5	火		
6	水		
7	木		木-1
8	金		
9	土		
10	日	真宗講座(14:00~、順慶寺本堂)	
11	月		
12	火		
13	水		
14	木		木-2

15	金	同朋ゼミ(14:00~、順慶寺玄関) 助音講(16:00~、順慶寺玄関)	
16	土	順慶寺こども会(9:00~、順慶寺本堂)	
17	日		
18	月		
19	火	同朋教室(法林寺、13:30~16:00)	
20	水		
21	木	前住職七回忌(11:00~、順慶寺本堂)	木-3
22	金		
23	土		
24	日		
25	月		
26	火		
27	水		
28	木	宗祖聖人御命日(7:00~、順慶寺本堂)	木-4
29	金		
30	土		
31	日		

5月行事内容 詳細

二十一組同朋教室

5月19日(火)

午後1時30分~法林寺(一ツ木町)

講師 三重県西寺住職 伊東恵深氏

テーマ「正信偈」に学ぶ

岡崎教区二十一組による、同朋教室が5月と6月にわたって開催されます。講師は同朋大学准教授を勤められた伊東恵深氏が担当されます。テーマは「正信偈」、真宗門徒にとって最も馴染みの深いお聖教です。よく聞くからこそ、なんとなく読んでしまうことは無いでしょうか。言葉に込められた願いをともに尋ねてまいりましょう。参加費は一千円。申込は順慶寺まで。

前住職七回忌

5月21日(木)

午前11時 順慶寺本堂

本年5月に前住職・池浦良裕の七回忌を迎えます。今回の法要は役員のみでおつとめをします。ただし、5月1日~5月20日までの間は本堂でお参りができるように前住職の法名を南余間に掲げますので、ご自由にご参詣ください。

お知らせ

●護寺会費のお集めについて

4月の護寺会費の決議を経て、令和8年度護寺会事業がスタートしました。つきまして、会員の皆様には、ゴールデンウィーク明けに、各戸に護寺会報と護寺会費等の納入のご案内をお届けいたします。5月中に納入をお願いいたします。

●本堂使用料について

このたび、護寺会総会の決議を経て、本堂使用料が定められました。

護寺会員は五千円、非会員は一万円となります。4月19日を以て、葬儀や法事で本堂を利用する際、お花・ロウソク・光熱費代を護寺会協力金として護寺会におさめていただくこととなります。ご理解とご協力のほどをよろしく申し上げます。なお、4月18日・19日の総会以前に本堂の使用を予約されていた方に対しては、可決以前の規則が適応されますので、本堂使用料は無料となります。

じゅんこのときめき歳時記

こくう 穀雨

豊川の宇連ダムの貯水率が0%になったことが話題になりましたが、この一年雨が少なかったように感じますね。しかし、この数日はまとまった雨が続いております。

4月20日から立春前日の5月4日までの期間を「穀雨」というそうです。春の最後の節期で、穀物の成長を促す雨が降る頃という意味を指します。古来から穀雨は種まきの好期の目安とされており、穀雨の終わりには八十八夜があります。「茶摘み」の歌からもわかるように、お茶との関係も深い時期です。新芽の出揃う頃に摘まれたお茶は「新茶」あるいは「一番茶」と呼ばれ、



栄養が豊富で美味しいと言われていま。まさに緑萌ゆる季節の恵みの雨。そんな日には、外に出たい気持ちを抑えつつ、猫に踊りでも教えたくなる子どもの心情にも、想像できますね。

春雨や 猫に踊りを
教える子

小林一茶